

サイエンススクールに関する報告

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2016-06-08
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 阿部, 紗織
	メールアドレス:
URL	所属:
	https://doi.org/10.14945/00009504

サイエンススクールに関する報告

阿部紗織

技術部 教育研究支援部門

1. はじめに

1.1. サイエンススクールの概要について

静岡サイエンススクールは2010年から静岡大学の理学部で行われている、研究者を目指す中高生を対象とした公開講座である。静岡サイエンススクールは8月に行われるサマープログラムと11月に行われるオータムプログラムの年2回行われる。講座内容としては、簡単な実験や観察、考察などが体験できるサイエンスワークショップ、理系の仕事をする人から仕事内容やその仕事に至った経緯について話を聴くキャリアデザインワークショップがある。私は静岡サイエンススクールサマープログラム2015のキャリアデザインワークショップにおいて自身の経歴と技術部の仕事紹介をさせて頂いた。

1.2. キャリアデザインワークショップの目的

キャリアデザインワークショップは、理系の仕事を目指す中高生に知っていそうで知らない理系の仕事について1つでも多くのことを知ってもらい、将来の選択肢の幅を広げるだけでなく、その仕事につくまでのプロセスを学ぶことで今後の進路決定に役立ててもらおう目的で行われた。

2. 講演に関して

2.1. 講演内容

講演者は自分を含めて3名であった。講演者の年齢層は20代後半から30代前半であった。3つの講演内容に関して以下にまとめた。

講演1：魅力ある生き物たち 佐々木彰生 静岡県自然史博物館ネットワーク

高校時代に生物の先生からテンを含め、アオバトや野ネズミなど多くの生き物について学んだことをきっかけに生物の世界に目覚めた。大学では海洋生物を専攻し、現職の自然史博ネット事務局員と静岡県自然環境保護調査委員会現地調査従事者になるまでの経緯についてお話を頂いた。自然史博ネット事務局員と静岡県自然環境保護調査委員会現地調査従事者となった今も、様々な生物の生態について調査を続けており、調査対象としている様々な生物について紹介して頂いた。中には、ハイターを使った簡単な魚の標本の作り方に関するお話もあった。

講演2：未熟は成長の最大のチャンス 阿部紗織 静岡大学技術部

大学時代での農家さんをお手伝いする援農活動をきっかけに実験室中心の農芸化学の分野からフィールドワーク中心の作物学に分野変更を行い、勉強を続け、静岡大学の技術職員となった後、実験補助として再び実験中心の生活に戻ってくるまでの経緯についてお話をさせて頂いた。作物に関する理解を深めて頂くために作物クイズもはさみつつ、お話をさせて頂いた。

講演3：昔の人の骨を化学分析する面白さ 日下宗一郎 ふじのくに地球環境史ミュージアム

自然人類学に目覚めるきっかけとなった書物の紹介や発掘された骨を化学分析することによってわかること、大学で学位をとり、博物館の主任研究員になるまでの経緯についてお話頂いた。研究者を目指す中高生を対象とした講演ということで大学に入学して博士をとるまでにどのくらいの費用がかかるのかについてのお話や、自然人類学のマメ知識として、女性と男性の頭蓋骨の見分け方についてのクイズなどもあった。

2.2. 講演に関するアンケート集計結果

以下のグラフは理学部の事務職員竹内佐枝子様から頂いた、アンケート集計表をもとに作成したものである。

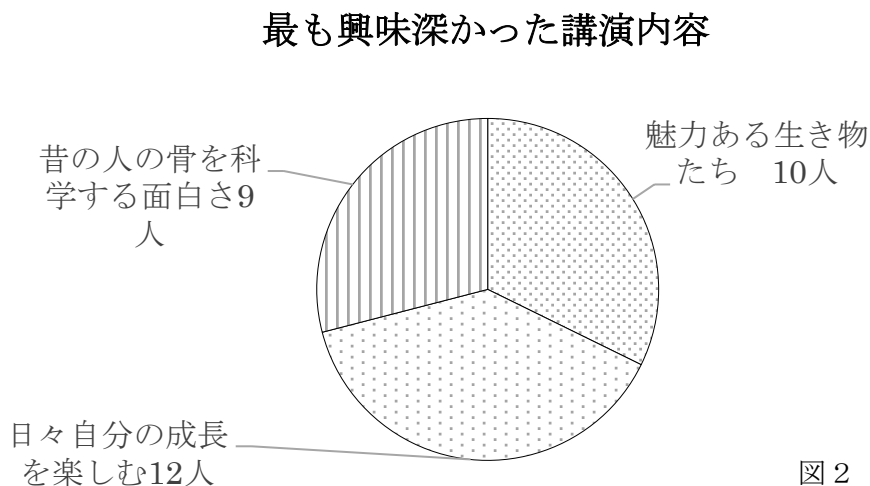
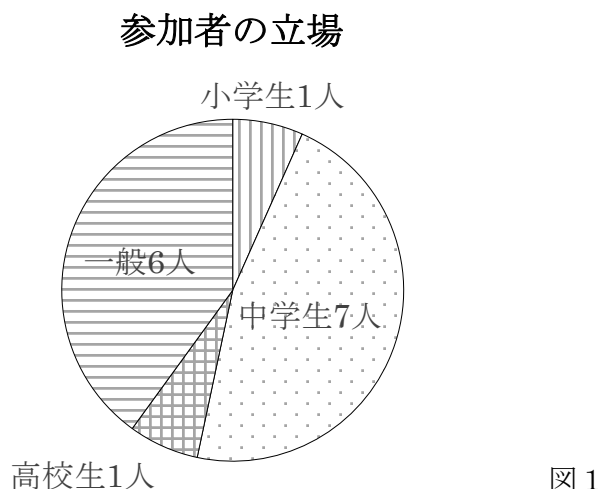


図1の円グラフは参加者の立場に関するアンケートの集計結果を示したものである。参加者は全体で15人であり、そのうち中学生の参加者が7人と特に多かった。その理由としては、キャリアデザインワークショップの前に中学生を対象とした簡単な実験や考察、観察などが体験できるサイエンスワークショップが行われていたことが考えられる。

図2の円グラフは3つの講演内容に関するアンケートの集計結果（複数回答可）となっている。私の「日々自分の成長を楽しむ」という講演に対して、参加者が15人いたうち、12人の方に興

味をもって講演を聴いて頂けたことが分かった。私の講演に対してある保護者の方から失敗を恥ずかしがる息子にとってありがたいお話だった。これからも失敗を恐れずに前向きにどんどん挑戦して行ってほしいという感想を頂き、収穫の多い経験となった。

2.3. 講演の様子と感想

講演の参加者は一般の方、中高生、教職員などを含めて15人と少人数であったが中学生の参加者が特に多かった。全体的に大人しい子が多く、質問も少なかった。講演時間は講演者1人につき質疑応答を含めて1時間だった。人前での発表が慣れていない自分にとっては大変なものであったが、今回の経験は今まで自分が考えてきたことを整理するだけでなく、他の同年代の方の経験に触れられる良い機会となった。今後もこのような機会があれば積極的に参加し、目標に向かって努力する人たちの力となることができればと考えている。



サイエンススクール キャリアデザインワークショップの様子

3. 謝辞

今回、この講演の話を下さった静岡大学理学部生物学講座竹内浩昭先生ならびに静岡大学技術部教育研究支援部門宮澤俊儀様をはじめとして講演に関わって下さった全ての方に深くお礼申し上げます。また、講演に関する原稿の掲載にあたってご協力頂きました静岡自然史ネット佐々木彰生様、ふじのくに地球環境史ミュージアム日下宗一郎様につきましてもお二方のお力添えに対し、深く感謝致します。